



<b>ウガンダ共和国</b>		首都	カンパラ
 <p>中央に入っている鳥は、民族のシンボルとして愛されている「カンムリツル」で、黒はアフリカ大陸を、黄は夜明けの太陽の光を、赤はアフリカ人の兄弟愛、同胞愛を表している。</p> <p>独立：1962/10/9 英国より 国連加盟：1962/10/25 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 24万 1,000 km <sup>2</sup> (ほぼ本州と同じ) 赤道直下の内陸国で、平均標高 1,200mの高原に位置し、南には世界第 2 位のビクトリア湖がある。西部国境には、世界最大といわれる東アフリカの大地溝帯が走っている。南西部（ルウェンゾリ山地）および東部の国境に山岳地帯がある。湖が多く、総面積の約 15%が湖や沼沢である。
		人口	2,880 万人
		言語	英語（公用語）、スワヒリ語（公用語）、ルガンダ語
		通貨	ウガンダ・シリング
		気候	赤道直下ではあるものの高原であるため、気候は温暖である。特にビクトリア湖周辺は温度差も小さく快適である。降雨量は全般的に多く、年平均 1, 000mm と東アフリカで最大である。3 月～5 月、9 月～10 月が雨季である。
		民族	ブガンダ族 18%、又ヨロ族 14%、ツルカナ族 11%
		宗教	カトリック 33%、プロテスタント 33%、原始宗教 18%、イスラム教 16%
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育 7 年間（6 歳～12 歳）、前期中等教育 4 年間、後期中等教育 2 年間、高等教育 4 年間である。</li> <li>・前期中等教育に並行して、技術学校（3 年間）、後期中等教育に並行して専門技術学校（2 年間）と初等教員養成校（2 年間）がある。</li> </ul>	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育制度はとられていないが、初等教育無償化政策が導入され、ほぼ 90%の子どもが 6 歳から 12 歳までの初等教育に就学している。</li> <li>・初等教育無償化政策により 1997 年より、各家族のうち 4 人までが無料で学校に行ける。（UPE 政策）</li> </ul> <p>その年の 1 月 1 日までに満 6 歳になる者は、その年の 2 月第 1 週に初等教育の第 1 学年に入学する。</p>	

<p>日本と比較した教育課程上の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は原則英語で行われる。</li> <li>・初等・中等教育のカリキュラムおよび補助教材は、国立カリキュラム開発センターが作成する。</li> <li>・初等教育における必須科目は英語、社会科、基礎科学、数学であったが、2002年からは農業、宗教教育が加わり、2004年からは芸術・体育、スワヒリ語が加わった。近い将来、ローカル語と総合生産学科（技術・家庭科のようなもの）が加わる予定である。</li> <li>・前期中等教育の必修科目は英語、歴史、地理、数学、物理など8科目あり、選択科目は英文学、キリスト教教育、農業、芸術、経理などから1科目選択する。</li> <li>・後期中等教育は自然科学か社会科学のどちらかのコースを選択する。</li> <li>・授業は、月曜日～金曜日の午前7時35分～午後4時40分まで行い、40分授業で、午前6時限、午後4時限のハードスケジュールである。土曜日にも補習授業が行われている。</li> </ul>
<p>義務教育後の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育レベルより国家試験を導入しており、初等教育修了試験、前期中等教育修了試験、後期中等教育修了試験が設定されている。他の途上国と同様、教育レベル・学年が上がるごとに女子の就学状況は低下している。これは、両親および社会の女子教育に対する認識の欠落、男子への教育機会の優先、家事労働への動員、早期妊娠、早婚などが原因となっている。</li> </ul>
<p>就学前教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市部においては、初等教育の準備の観点から、30%程度の幼児がナーサリースクールに通っている。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・UPE政策により、就学率は約90%に達したものの、教室不足による教育環境の悪化、教科書の不足、落第者の増加、教員レベルの低下などが大きな課題になっている。</li> </ul>
<p>学校生活</p>	<p>休業期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期が2月第1週～5月第4週、2学期が5月第4週～8月第3週、3学期が9月第4週～12月第2週となっているのでこの間が休業期間となる。</li> </ul>
	<p>飛び級、落第の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年のデータでは初等学校の落第率は13.7%であった。</li> <li>・小学生における落第者（試験に落ちると落第する、途中で行かなくなる）の多さが課題である。</li> </ul>
	<p>校則</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制服代、施設費、教材費などが保護者負担であり、支払えないために就学できない児童も多い。</li> </ul>

	子どもの一日	・放課後、クラブ活動や両親の手伝い、テストの準備などでして過ごす。家に帰るのが6時過ぎになり、疲れてしまって食事をしたらすぐに寝てしまう時もある。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・日本語の学習では、「ウ」の発音が巻き舌になってしまうことがある。
	食生活	・マトケ（食用バナナ）や米などを食べる。
	その他	・日本については、最も工業の進んだ国という知識はあるが、日本人や文化についてはほとんど知らず、中国人や韓国人との区別がつかないと話す子どももいる。

<参考資料>


- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ウガンダにおける教育の現状と課題・・・・・・・・東京学芸大学大学院生 千葉みずき
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・・・・・・・・・井上恵子

ウクライナ		首都	キエフ
 <p>青と黄の2色の旗は「独立ウクライナの旗」といわれている。</p> <p>独立：1991/8/24 ソビエト連邦より 国連加盟：1945/10/24 政体：共和制</p>	国の概要	国土	面積 60万4,000 km <sup>2</sup> (日本の1.6倍) 黒海の北に広がる平原の国で、中央部はドニエプル川が貫流する大平原で肥沃な黒土地帯である。東部はドネツ丘陵、西部はカルパティア山脈へ続く高地があり、南はクリミア半島が黒海に突き出している。
		人口	4,650万人
		言語	ウクライナ語(公用語)、ロシア語
		通貨	ユーロを取り入れているが、通常はグリブニャ(グリブナ)を使っている。
		気候	全般に穏やかな大陸性気候、大西洋の影響を受け雨量が多く、土壌が肥沃なため、植物が豊かである。南部は温暖で特にクリミア半島はリゾート地として名高い。北上するにつれて気温差が大きくなり、冬の寒さが厳しくなる。
		民族	ウクライナ人 73%、ロシア人 22%、ユダヤ人 1%
		宗教	ウクライナ正教、ウクライナカトリックプロテスタント、ユダヤ教
教育制度の概要	学校体系	・小学校3年、中学校5年、高校3年、大学5年である。	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6歳(第1学年)から17歳(第11学年)の11年間である。</li> <li>・その年の9月1日までに満6歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。</li> <li>・授業料は無料である。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は9月1日から翌年の5月31日までである。</li> <li>・4学期制を採っており、1学期は9月1日～10月31日、2学期は11月11日～12月29日、3学期は1月11日～3月24日、4学期：4月11日～5月31日、という状況になっている。</li> <li>・授業は月～金曜日で、必須科目はウクライナ語のほか、情報学、経済学など社会に出てすぐに役立つ科目が早くから教えられている。</li> <li>・ウクライナ伝統文化(民族舞踊、歌、料理、祝日の祝い方など)は必須科目となっている。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語は1年生から必須科目で、ロシア語は選択科目となっている。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育を終えると、普通学校と専門学校のどちらかを選択できる。</li> <li>・入学試験を受けて大学に進学する。首都キエフでの大学進学率は50%程度である。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立と私立の機関があり、国語、音楽、体育などを習う。私立では外国語も教える。</li> </ul>
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月末に1週間の春休み、6～8月に3カ月間の夏休み、12月末～1月に約2週間の冬休みがある。</li> </ul>
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親と学校の役割は五分五分で、学校には全体両親委員会、各クラスにも両親委員会がある。月に1度、両親の集会では、子どものことについて先生と話し合う。</li> </ul>
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後は、4～9年生は絵画、折り紙、舞踊などのクラブ活動に参加したり、近くにあるスポーツ施設で水泳やテニスを楽しんだりしている。10～11年生の多くは家計を助けるため、売り子などのアルバイトをしている。週末は、ダーチャと呼ばれる郊外の別荘で、農作業をする両親を手伝う。</li> </ul>
生活習慣等	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地下鉄、電車、トロリーバス、バスが走っている。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本に対する関心はとても高いが、地理などで学ぶ以外はあまり多くの情報が得られないようである。広島と長崎に原爆が落とされたということは知っている。日本人は非常に勤勉だという印象を持っている。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・ウクライナの文化を知ろう・・・・・・・・東久留米市市民のページ

オーストラリア連邦		首都	キャンベラ
 <p>南十字星を示す 5 つの星と独立したときの 7 つの州を意味する 7 条の光を放つ大きな星と左上にイギリス連邦を示すユニオン・ジャックが入っている。</p> <p>独立：1939/9/3 英国より 国連加盟：1945/11/1 政体：立憲君主制</p>	国の概要	国土	面積 774 万 1,000 km <sup>2</sup> (日本の約 20 倍) オーストラリア大陸とタスマニア島からなる。大陸は東海岸に沿って海拔千数百 m の大分水嶺山脈が走る東部山地、大鑽井盆地の開ける中央低地、砂漠が多い西部台地の 3 つに分けられる。国土の平均高度はわずか 300m しかない。北東部の海はグレートバリアリーフとよばれる世界最大のサンゴ礁の群生する海域である。
		人口	2,070 万人
		言語	英語 (公用語)
		通貨	オーストラリア・ドル
		気候	東部山脈の海岸側斜面は季節風の吹く温帯湿潤気候で、南東部では偏西風の吹く西岸海洋性気候になる。南西部の沿岸は冬に降雨のある地中海性気候、北部の沿岸はサバナ気候である。内陸部はほとんどが砂漠気候で、ところどころにステップがみられる。世界で最も乾燥した大陸ともいわれる。
		民族	イギリス系 77%、イタリア系、オランダ系、ドイツ系、アボリジニ 2%
		宗教	英国国教会 26%、カトリック 26%、その他のキリスト教 24%
教育制度の概要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育、初等・中等教育、第 3 次教育の 3 段階に分かれていて、分け方は州ごとに行われており、カリキュラムや休業日も異なっている。</li> <li>例えばニュー・サウス・ウェールズ州や首都特別地域、ビクトリア州、タスマニア州では、初等教育 6 年、中等教育 4 年、第 3 次教育 2 年、の制度である。</li> <li>・クイーンズランド州、南オーストラリア州、西オーストラリア州、北部準州では初等教育 7 年、中等教育 3 年、第 3 次教育 2 年である。</li> </ul>	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育は、原則 6 歳~15 歳となっている。(タスマニア州は 6 歳~16 歳)</li> <li>・学区が決まっているわけではなく、地域で好きな学校を選択できるようになっている。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立学校は、男女共学である。</li> <li>・義務教育は無料である。</li> </ul>
日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は1月下旬(2月上旬)～12月中・下旬となっている。</li> <li>・州によって異なるが、4学期制を採っている(タスマニア州は3学期制である)。この場合、1学期は1月下旬(2月上旬)～4月中旬、2学期は4月下旬～6月下旬(7月上旬)、3学期は7月中旬～9月下旬、4学期は10月中旬～12月中・下旬、となる。</li> <li>・年間授業日は約200日で、土日は休みである。</li> <li>・学校は9時～15時半までで、15時半になると先生も含めて、学校にはだれもいなくなってしまう。</li> <li>・初等・中等教育のカリキュラムは州政府の所管であり、各学校の授業は、州政府のガイドラインに基づくが、国語、数学、科学、社会・環境、文学、保健、外国語などをカリキュラムに含めなければならない、としている。</li> <li>・学校の特色と興味を生かした授業も認められている。</li> <li>・国土が広いため、国や州では、都会から遠く離れたところに住んでいる子どもたちに遠隔地教育を行っている。教科書やプリントを郵便で送り、生徒もレポートを郵便で送る。また、無線などを使って、先生と話をしたり、質問をしたりできるようにしている。音楽やスピーチなどはカセットテープを利用する。インターネットも使われている。</li> <li>・連邦及び州政府は、アボリジニ及びトレス海峡諸島に対する教育にも熱心である。</li> <li>・中等教育学校に進むと必須科目以外に選択科目が設けられ、学年が進むにしたがって選択の幅が広がっていく。例えば、外国語、商業、芸術、音楽、農業、家庭科などがある。</li> </ul>
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等・中等教育の第10学年が修了すると義務教育修了書が授与される。</li> <li>・さらに、第11・12学年に進学して高等学校修了認定書を取得できる。</li> <li>・義務教育は満15歳(タスマニア州は16歳)までであるが実際には多くの生徒が引き続き11・12年生へと進学する(進学率は約75%)。</li> <li>・大学に進学するものは12年生を修了する時点(18歳～)</li> </ul>

	<p>で統一高等学校資格試験を受験するが、この試験も州によって名称が異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、TAFE (Technical and Further Education) と呼ばれる機関もあり、コースによっては義務教育修了直後に入学できるところもある。</li> </ul>
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育は3歳~5歳の幼児を対象とし、プリ・スクールと呼ばれる就学前教育機関で週2~5日、1日あたり2~3時間程度行われている。州によってはキンディとかプリ・キンディと呼ばれる。</li> <li>・公立小学校の中にある「準備学級」(名前は州によって違う)が5歳児を受入れており、ほとんどの子どもが通っている。</li> <li>・ニュー・サウス・ウェールズ州では、5歳児の学年を「キンダーガーデン (キンディ)」と呼び、義務教育の最初の年としている。</li> <li>・共働き家庭の幼児のための保育所 (チャイルド・ケア・センター) もある。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を母語としない子どもが就学しようとするときは、小学校であれば、英語に慣れるまでの間、IEC (Introductory English Class) と呼ばれる特別クラスで勉強してから通常の学校に編入する。中・高校になると、SIEC (Secondly Introductory English Class) と呼ばれる英語を集中的に教育するための特別クラスで約半年から1年間学習し、それから通常の学校に編入する。</li> <li>・学校内に ESL コース (留学生向けの英語特別授業) を設けている学校もある。</li> <li>・上級生が新入生の相談にのったり、学校の課題を手伝ったりして、新しい環境に慣れる手伝いをするバディシステムなどと呼ばれる制度を導入している学校もある。</li> <li>・ヨーロッパやアジアなどから多くの文化的背景を持った人々が集まる「多文化国家」であることから、多文化主義を反映した教育を行っている。</li> <li>・英語以外の言語教育を「LOTE」(Language Other Than English) という。移民が多く、全人口の25%がオーストラリア以外の国で生まれ、しかも英語を使わない国の出身者が増えてきているので、言語教育として、小学校から外国語が教えられ、日本語を学ぶ子どもも多い。</li> </ul>



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室などの掃除はしない。</li> </ul>
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月中旬～下旬のイースター休暇（1～2週間）、6月～7月の冬休み（2週間～1カ月）、9月～10月にかけての春休み（10日～2週間）、12月中旬～1月下旬または2月中旬の夏休み（40～50日間）がある。</li> <li>・長い休みの時期は州ごとに決められる。</li> </ul>
	学級担任制、 教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は1クラス25人位が普通で、学級担任制であるが、選択教科（宗教・外国語・器楽など）は専科教員が行う。違う学年が一緒の教室で勉強することもある。</li> <li>・中・高校は、「自分の教室」というものはなく、授業のたびに教室を移動する。教科によって先生も変わり、授業は自分で選んで受けるので、教科によって生徒も変わる。</li> <li>・小学校の授業では、共通の教科書ではなく、先生たちが自分たちで作った教材を教科書代わりに使っている。</li> </ul>
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、国語（英語）、算数、社会、理科、音楽、図工、保健、体育のほか、選択教科として、異文化（宗教などを含む）、外国語、器楽などがある。</li> <li>・クラブ活動はない。</li> </ul>
	学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足、課外活動などは各学校に任されているので、頻度や種類などはまちまちである。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前中にモーニング・ティーという習慣がある。子どもたちはそれぞれの家から持ってきた「おやつ」を食べる。先生たちも職員室でお茶を飲む。</li> <li>・給食は実施されていない。弁当（サンドイッチとりんご1個など）持参の子が多いが、サンドイッチ、ミートパイなどを販売する売店（タックショップ・カンティーン）もある。この売店はPTAのお母さんたちが手伝っているところもある。</li> <li>・おやつも昼食も教室内では食べることができず、校舎の外で食べる。</li> </ul>
	教室における行動様式 等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数制クラスが基本で、先生が一方向的に教えるのではなく、生徒が中心となり、先生が指示したテーマについてディスカッションやプレゼンテーションを行ったり、レポートにまとめたりする。</li> <li>・授業は非常に静かに行われ、教室の扉は開放されているのに、他のクラスの迷惑になることはない。授業の妨げになる</li> </ul>


	<p>言動をする子どもは迷わず廊下に出される。これは学習する子の権利をより大事にするからである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課外活動や野外授業が自然環境を生かした大きなスケールで行われる。</li> <li>・ 出席、欠席、遅刻、早退は記録され、成績表に記載される。</li> <li>・ 宿題は比較的多い。</li> <li>・ 靴のまま教室に入るの、上靴や靴箱はない。</li> </ul>
校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの学校でも制服があり、それぞれの学校で季節に合わせて何種類か決められている。大抵が学校独自のポロシャツやトレーナーが多い。中にはTシャツをユニフォームにしている学校もあり、クラスでTシャツのデザインを決めているところもある。高校生になると、普段のトレーナーに加え、式典用のブレザーが制服に加わる。ブレザーは高価なので、式典の時だけ、生徒に貸すというシステムをとっている学校もある。</li> <li>・ 持ち物についても詳しく校則で決められている。</li> <li>・ 学校の決まりが多く、決められたルールを破ると罰をうけるが、子どもたちもルールについて納得しており、先生はその場の感情ではなく、ルールに沿って指導をするため、指導が横道にそれず、徹底するようである。</li> <li>・ トイレなどの生理的現象に関わることには、守るべきルールではないので、授業中に自由にトイレに行ってもよいことになっている。</li> <li>・ 名札はつけていない。</li> <li>・ 両親が認めたことはできるが、認めていないことはできない。</li> </ul>
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連絡を入れておけば授業参観も比較的簡単にできる。</li> </ul>
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通学はスクールバスか親による自動車での送迎が多い。</li> <li>・ 放課後は、バスケットボール、ネットボール、スケートボード、木登り、ボディボード、サーフィンなどで遊ぶ。塾に行く子どもはほとんどいない。しかし、近年、日本の塾やテレビゲームの人気の高まってきている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間には、防犯上の理由で教室に鍵をかけるため、子どもはみんな教室の外に出される。先生たちは休み時間にスタッフルームでお茶を飲んだり、お菓子を食べたりするが、</li> </ul>

		<p>先生と子どもは立場が違うものだという認識がはっきりされているので、子どもたちが文句を言うことはない。当番の先生が子ども同士のトラブルがあったり、事故が起こったりしたとき現場を見ておく必要があるので、運動場の見回りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎内、校庭はそれぞれ掃除をする人がいるので、子どもたちは掃除の時間はなく、のんびりと昼休みを過ごしている。</li> </ul>
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の学習では、「う行」の発音が、巻き舌になってしまうことがある。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をしなければお小遣いがもらえないというギブアンドテイクの考え方からか、よく家の手伝いをする。欲しいものがあるときには、特にがんばっていろいろな仕事をするように、自分の家の中のみならず、近所にチラシを配って仕事を探す子もいる。高学年になると、ベビーシッターのアルバイトもしている。</li> <li>・夜 7 時半になると、テレビで「子どもは自分の部屋に戻りましょう」というアナウンスが流れる。</li> <li>・テレビ番組の始まる前に、「今から始まる番組は一般向けの番組です」「大人と一緒になら見てもいい番組です」「15 歳以上向けの番組です」というような説明がされる。暴力場面や過激な場面のある番組を小さな子どもたちに見せないためである。</li> <li>・「大人と子どもは違う」という考え方から、いろいろな規制が子どもを守っている。例えば、普通の本屋さんには大人向けの雑誌は置いてないし、町の中にタバコやお酒の自動販売機なども置いていない。</li> <li>・クイーンズランド州では日差しが強く、日焼け止めを塗っていないければ、外で遊んではいけないという決まりになっており、目を守るために子どもでもサングラスをかけて登校することになっている学校もある。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・外務省
- ・世界の国々・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・平凡社

- ・オーストラリアの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アルク
- ・パースの子どもたち・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・元パース日本人学校教員 辻本紳一郎


<b>オランダ王国</b>			首都	アムステルダム
 <p>「王子の旗」とも呼ばれ、昔は赤ではなく、オレンジ公ウィリアムに因んで、オレンジであり、王室のシンボルとして使っている。</p> <p>独立：1648 スペインより 国連加盟：1945/12/10 政体：立憲君主制</p>		国の概要	国土	面積 4万 2,000 km <sup>2</sup> (九州と同じ) ライン川とマース川の河口にできた低地で、国土の4分の1は堤防で守られたポルダーとよばれる海面下の干拓地である。国土と運河と排水路で区画された平坦な土地で、南東部の最高地点でも標高はわずか 321m しかない。北海岸には砂丘が連なる。オランダの国土はオランダ人自身が作った土地であるといわれる。
			人口	1,642 万人
			言語	オランダ語 (公用語)、フリースラント語
			通貨	ユーロ
			気候	偏西風とメキシコ湾流の影響で、夏はさほど暑くなく冬の積雪も少ない温和な気候である。西方海上から吹き抜ける風と曇った天気が多いことが特徴である。
			民族	ゲルマン系オランダ人 80%
			宗教	カトリック 30%、プロテスタント 21% イスラム教 6%、ヒンズー教 1%
教育制度の概要	学校体系		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育 8 年(5 歳～12 歳)、中等教育から進路別に、大学準備教育(6 年間)、一般中等教育(5 年間)又は中等職業教育(4 年間)に分かれる。大学は 4 年である。</li> </ul>	
	義務教育		<ul style="list-style-type: none"> <li>・5 歳(幼稚園の年長)から 18 歳(小学校 6 年間と中等教育の前半の 4 年間)までが義務教育期間でだが、最後の 2 年間については、部分的義務教育である。</li> <li>・遅くとも 5 歳の誕生日の翌月 1 日から始まる。</li> <li>・8 学年 (12 歳) で、CITO (全国共通テスト) が実施され、その成績と日常の成績を資料として次の学校への進路選択がなされる。</li> <li>・公立も私立も無償で、国の補助がある。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は 8 月 1 日～翌年の 7 月 31 日である。</li> <li>・オランダ語で授業は行われるが、子どもの感性、知性、創造性の発達と、十分な社会的、文化的・身体的能力を身につけることに重点が置かれている。</li> <li>・ほとんどの中等学校は 1 年から 2 年間の移行期間というものを設け、自分は何をしたいのか、自分が本当に興味のある</li> </ul>	

		教科は何かなどはっきりしていない子どもにコースを移っていいようにしている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等教育は 3 種類あり、職業訓練中等教育 (VMBO)、上級一般中等教育 (HAVO)、大学進学中等教育 (VWO) があり、ほとんどの中等学校では、これらの教育のうち、2 種類以上を提供している。VMBO は 4 年職業教育 (MBO) に進むことができる。HAVO は 5 年制で、その先は上級職業教育 (HBO) で、VWO は 6 年制で、大学教育 (WO) に続く。</li> <li>・大学準備教育と中等職業教育のいずれを選ぶかにより、事実上次の進学先として大学(4~6 年)を選ぶか高等職業教育(4 年間)が決まる。現在初等学校卒業生の半数以上が中等職業教育に進学する。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務ではない。託児所(6 週間~4 歳)、保育園(おおむね 2~4 歳)。費用は保護者の所得等により違っている。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育は、中央に当該省があるが、具体的内容は各自治体や学校に任されている。</li> <li>・アメリカンスクールをはじめ国際学校がある。</li> </ul>
学校生活	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習困難な生徒を指導する担当教諭がいる。特に「宿題監督者」の制度は、学校で先生の指導のもとで宿題をする機会を得られるというものである。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食はなく、各自で弁当を持参する。食堂で牛乳等を買うことができる。</li> </ul>
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の場合、8:45 に授業が始まり、3 時限(1 時限は 45 分)が終わると 20 分の小休憩がある。その後、2 時限あり、12:50~13:20 までが休憩(お昼休み)になる。その後 4 時限あり、16:20 に授業が終わる。放課後は、宿題をしたり、テレビを見たり、コンピュータでチャット等をしたりして過ごすことが多い。</li> </ul>
生活習慣等	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝と昼にジャムやチーズ等をのせたパンを食べることが多く、夜は温かいご飯を食べる。伝統料理はケール(キャベツの一種)とソーセージ、エルテンスープ、それにヒュッツポット(つぶしたじゃがいも、たまねぎ、にんじんの料理)である。</li> </ul>
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都会では、昔からの古い家やハウスボート、マンションなどの集合住宅に住んでいる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな町では、テラスハウスという2階か3階建ての家族用住宅が一般的で、家の前には小さな庭があり、裏には大きな庭がついている。同じような家が横一列に並んでいる。</li> <li>・田舎では、暖炉の上の壁やキッチンがタイルで装飾された1軒家である。</li> </ul>
交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民のほぼ全員が1台またはそれ以上の自転車を持ち、学校や仕事に行くときや休日に使う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日を大事にし、多くは、家族や友達と過ごしたり、地域のスポーツクラブや劇団、音楽グループに入って活動したりする。</li> <li>・スポーツが盛んで、中でもサッカー、スケート、ホッケー、自転車競技、水泳、ヨット、乗馬が人気である。</li> <li>・家族や仲間と一緒にいる時に感じる温かい気持ち「ヘゼリフ（Gezellig）という言葉をよく使う。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・豊かな国オランダで生活して・・・・・・・・アムステルダム日本人学校 山田 高之
- ・ロッテルダム日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・オランダの教育制度・・・・・・・・・・・・・・・・オランダ大使館


<b>ガーナ共和国</b>		
		
<p>赤は独立のために戦った人々を、黄は地下資源を、緑は森と農地を表している。中央の黒い星はアフリカの自由を導く道しるべの星になっている。</p> <p>独立：1957/3/6 英国より          国連加盟：1957/3/8          政体：共和制</p>		<b>国 の 概 要</b>
	首都	アクラ
	国土	面積 23万9,000 km <sup>2</sup> (本州よりやや大) 大部分が低地で最高点も標高885m にすぎない。海岸から内陸へ100km までは海岸平野、西部は森林高原地域、東部はボルタ川流域の平坦地に分けられる。アカソボダムによって作られたボルタ湖は面積8,400km <sup>2</sup> 、世界最大級の人造湖である。
	人口	2,210万人
	言語	英語、アシャンテ語
	通貨	セディ
	気候	南から北に向かって、熱帯雨林気候からサバナ気候へ移行する。12～3月はサハラ砂漠からの乾燥した北東風のために乾季に、4～10月はギニア湾からの南西貿易風のために雨季となる。
	民族	アカン族 40%、モシ・ダゴンバ族、エウェ族、ガ族、ヨルバ族
	宗教	キリスト教 50%、イスラム教 15% その他伝統宗教
<b>教 育 制 度 の 概 要</b>	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と同様の6・3・3・4制をとっている。</li> <li>・公立校、私立校、インターナショナルスクールがある。</li> </ul>
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校1年(6歳)～中学校3年(15歳)の9年間が義務教育期間である。</li> <li>・授業料は無料である。</li> </ul>
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期が9月～12月、2学期が1月～3月、3学期が4月～7月という3学期制である。</li> <li>・その年の8月末までに満6歳になる者は、同年の9月に入学する。</li> <li>・授業は英語で行われる。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育期間が修了すると、その後は後期中等教育の高等学校(3年間)又は技術学校へ進学する。</li> <li>・後期中等教育への進学は、前期中等教育終了時受ける基礎教育認定試験の成績で決定される。</li> <li>・高等教育への進学は高校3年生のときに実施される後期中等教育認定試験によって決定される。</li> <li>・高等教育は、総合大学(18歳～21歳)、医科大学(18歳～</li> </ul>



		24 歳)、教員養成学校 (18 歳~20 歳)、ポリテクニク(18 歳~20 歳)などがある。
	就学前教育	・ 保育園・幼稚園は圧倒的に私立校が多い。施設によって異なるが一般的には 3 歳児~6 歳児が対象となっており、年間 100US ドル程度かかる。
	その他	・ 都市部の私立学校のなかには、日本の小・中学校よりはるかに多い課題を生徒に与えているところもあり、ややもすると詰め込み式ともいえる授業を展開している。就学前からの早期学習もまれではない。 ・ 一方では、初等教育すら修了しない児童も数多く、社会問題になっている。
学 校 生 活	休業期間	・ 第 1 学期休暇が 4 月初旬~約 3 週間。第 2 学期休暇が 7 月下旬~8 月末まで、クリスマス休暇が約 1 カ月である。
	給食	・ 給食はなく、各自が持参するか、学校内の屋台で購入したりする。
生 活 習 慣 等	言葉の指導面の留意事項	・ 日本語の学習では、「ウ」の発音が、巻き舌になってしまうことがある。

<参考資料>

- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ アクラ補習授業校 (月刊誌「海外子女教育」)・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・ ガーナ・・・・・・・・・・・・・・・・Wikipedia

<b>カナダ</b>		首都	オタワ																						
 <p>両側の赤い帯は太平洋と大西洋で、中央のメイプルリーフがカナダを象徴する。葉の先端の尖った部分と枝を合わせた12の数は、国を構成する10州と2準州を表している。(現在は10州と3準州)</p> <p>独立：1867/7/1 英連邦内で自治領成立 1931 主権獲得 国連加盟：1945/11/9 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 997万1,000 km <sup>2</sup> (日本の27倍) 北米大陸の北半分を占め、ロシアに次ぐ世界第2位の国土面積を誇る。西部は環太平洋造山帯の一部をなすカナディアンロッキー山脈、中部はローレンシア台地と内陸平原(グレートプレーンズ)がひろがり、東部は大森林に覆われる低平なラブラドル高地である。北部は北極海に臨む多島海である。																						
		人口	3,260万人																						
		言語	英語(公用語)、仏語(公用語)																						
		通貨	カナダ・ドル																						
		気候	国土の5分の2は北緯 60℃以上のツンドラ気候、以南は寒冷なタイガ気候で冬の寒さは厳しい。太平洋南部は温和な西岸海洋性気候、大西洋南部もメキシコ湾流の影響で寒流と接するため霧が多発する。																						
		民族	イギリス系 45%、フランス系 29%、ドイツ系 6%、イタリア系 3%、中国系 2%、イヌイット																						
		宗教	カトリック 42%、プロテスタント 40%																						
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<p>・連邦内で統一された教育制度はない。州及び準州の自治に委ねられている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">履修年度</th> <th style="width: 70%;">対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・6・3・3</td> <td>ニューファンドランド・ラブラドール</td> </tr> <tr> <td>1・5・3・3</td> <td>ニューブラウンズウィック</td> </tr> <tr> <td>7・3・3・3</td> <td>ノバスコシア</td> </tr> <tr> <td>1・7・5・(2, 4)</td> <td>ブリティッシュ・コロンビア</td> </tr> <tr> <td>8・4・4</td> <td>オンタリオ、マニトバ</td> </tr> <tr> <td>6・2・4・4</td> <td>オンタリオ(オタワ・カールトン)</td> </tr> <tr> <td>7・3・3</td> <td>アルバータ</td> </tr> <tr> <td>6・5・2・3</td> <td>ケベック</td> </tr> <tr> <td>6・3・3・3</td> <td>プリンスエドワードアイランド</td> </tr> <tr> <td>9・3・4</td> <td>サスカチュワン</td> </tr> </tbody> </table> <p>・公立校(パブリックスクール)と私立寮制学校(ボーディングスクール)がある。95%はパブリックスクールである。</p>		履修年度	対象州	1・6・3・3	ニューファンドランド・ラブラドール	1・5・3・3	ニューブラウンズウィック	7・3・3・3	ノバスコシア	1・7・5・(2, 4)	ブリティッシュ・コロンビア	8・4・4	オンタリオ、マニトバ	6・2・4・4	オンタリオ(オタワ・カールトン)	7・3・3	アルバータ	6・5・2・3	ケベック	6・3・3・3	プリンスエドワードアイランド	9・3・4	サスカチュワン
	履修年度	対象州																							
	1・6・3・3	ニューファンドランド・ラブラドール																							
	1・5・3・3	ニューブラウンズウィック																							
	7・3・3・3	ノバスコシア																							
	1・7・5・(2, 4)	ブリティッシュ・コロンビア																							
	8・4・4	オンタリオ、マニトバ																							
	6・2・4・4	オンタリオ(オタワ・カールトン)																							
	7・3・3	アルバータ																							
	6・5・2・3	ケベック																							
	6・3・3・3	プリンスエドワードアイランド																							
	9・3・4	サスカチュワン																							


<p>義務教育</p>	<p>・ 州によって様々である。</p> <table border="1" data-bbox="603 315 1359 757"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 315 807 360">義務教育期間</th> <th data-bbox="807 315 1359 360">対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 360 807 461">5 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 360 1359 461">ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 461 807 506">5 歳～17 歳</td> <td data-bbox="807 461 1359 506">ブリティッシュ・コロンビア</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 506 807 551">5 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 506 1359 551">ニューブラウンズウィック</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 551 807 595">6 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 551 1359 595">ケベック、アルバータ、オンタリオ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 595 807 640">6 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 595 1359 640">オンタリオ（オタワ・カールトン）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 640 807 685">7 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 640 1359 685">サスカチュワン、マニトバ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 685 807 757">7 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 685 1359 757">プリンスエドワードアイランド</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 公立の授業料は無料である。</p>	義務教育期間	対象州	5 歳～16 歳	ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア	5 歳～17 歳	ブリティッシュ・コロンビア	5 歳～18 歳	ニューブラウンズウィック	6 歳～16 歳	ケベック、アルバータ、オンタリオ	6 歳～18 歳	オンタリオ（オタワ・カールトン）	7 歳～16 歳	サスカチュワン、マニトバ	7 歳～18 歳	プリンスエドワードアイランド
義務教育期間	対象州																
5 歳～16 歳	ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア																
5 歳～17 歳	ブリティッシュ・コロンビア																
5 歳～18 歳	ニューブラウンズウィック																
6 歳～16 歳	ケベック、アルバータ、オンタリオ																
6 歳～18 歳	オンタリオ（オタワ・カールトン）																
7 歳～16 歳	サスカチュワン、マニトバ																
7 歳～18 歳	プリンスエドワードアイランド																
<p>日本と比較した 教育課程上の特徴</p>	<p>・ パブリックスクールはカナダ国民に広く教育を提供することを目的としているため、各州の教育省のもと、学区内の教育省が管理・運営を行っており、学校格差はほとんどない。</p> <p>・ ボーディングスクールは、宗教団体や民間団体が運営しており、個性もさまざま、理系に強い学校、文系に強い学校、芸術に強い学校など、バラエティーに富んでいる。カリキュラムはアカデミックな科目を中心に構成されているが、進学準備に力を注ぐ一方で、新しい試みも忘れずに、国際的、多文化的な教育展開を行っている。</p> <p>・ 学校年度は、9 月～6 月である。</p> <p>・ 学期制については、州によって様々である。</p> <table border="1" data-bbox="603 1335 1359 1765"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 1335 783 1379">学期制</th> <th data-bbox="783 1335 1359 1379">対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 1379 783 1424">学期制なし</td> <td data-bbox="783 1379 1359 1424">ノバスコシア（小・中）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1424 783 1525">1 学期制</td> <td data-bbox="783 1424 1359 1525">サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1525 783 1715">2 学期制</td> <td data-bbox="783 1525 1359 1715">ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1715 783 1765">3 学期制</td> <td data-bbox="783 1715 1359 1765">オンタリオ、ブリティッシュコロンビア</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ Year Round School では、学期制があるところと無いところがある。</p> <p>・ 初等教育では、語学、算数などのほかに、生徒の批評力と分析能力の発達を促すため、メディア・リテラシーの訓練などの授業も行われる。</p>	学期制	対象州	学期制なし	ノバスコシア（小・中）	1 学期制	サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール	2 学期制	ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、	3 学期制	オンタリオ、ブリティッシュコロンビア						
学期制	対象州																
学期制なし	ノバスコシア（小・中）																
1 学期制	サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール																
2 学期制	ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、																
3 学期制	オンタリオ、ブリティッシュコロンビア																

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オタワにある高校では、授業は月曜日から金曜日の午前 9 時 15 分から午後 3 時までで、英語、フランス語、数学、化学、ボランティアが必修科目であり、10 学年から選択可能な日本語の授業では、日本での 2 週間程度のホームステイが実施されている。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校のプログラムは 2 つに分けられ、1 つは大学進学のための授業、もうひとつはコミュニティ・カレッジや技術専門学校への進学又は就職に備えるための授業となっている。</li> <li>・専門技術学校（1～3 年）、短期大学、大学（4 年）がある。大学に入学するためには、統一仏語試験（DEC）に合格する必要がある。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの州で初等学校入学の前に 1 年間の幼稚園課程がある。オンタリオ州とケベック州では 2 年間、サスカチュワン州では 3 年間である。</li> <li>・幼稚園が義務教育の州とそうでない州がある。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューブランズウィック州では、身障者教育についても力をいれており、健常者と同じ学校・教室でともに学ぶ工夫がされ、それを実現するために教師をサポートするスタッフが常勤している。</li> <li>・保護者は、子どもに受けさせたい教育内容の希望を表明し学校を選択できる。学校以外の場所で、子どもに合った教育が受けさせられると判断すれば、義務教育修了前において通学免除を許可されることがある。</li> <li>・外国人に対する言語特別指導として、ESL コースがある。</li> </ul>
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・州によって違うが、クリスマス休暇が 2 週間、7～8 月の夏休みが 2 カ月、春休みが約 2 週間ある。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早く進歩する生徒には、飛び級などで対応する。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食は持参する。カフェテリアや売店があり、昼食を購入することもできる。</li> </ul>
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業形態はアメリカに非常に似ており、ディスカッションが中心である。各生徒は、学年はじめに自分でカリキュラムを組み、自分が選んだ科目の教室に移動して授業を受ける。学習意欲のある生徒に対しては、非常に熱心に指導するが、学習意欲を欠いた生徒には落第や退学などの厳しい処置をとることがある。</li> </ul>
	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オタワの高校では、制服や校則はなく、生徒の自主性を重</li> </ul>

		んじ、生徒と教師の信頼関係に基づいた学校運営がされているが、教師がいない時には教室へ入れないなどの厳しいルールもある。
	子どもの一日	・スクールバスで通学する州が多い。
	その他	・学校内における教室外の責任は全て校長にある。生徒の家庭・風紀や教師の採用から配置、学級の編成、生徒の配置まで行う。 ・教室内のことは、担任教師の責任であるが、教室外のことは責任外である。生徒は個人として尊重され、評価される。それぞれの個性に合わせて後退せずに進歩できればよいと考えられている。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・英語はカナダ全土で使用されている。フランス語はケベック州全域、オンタリオ北部のケベックに隣接している地域、マニトバ州の一部、ニュー・ブランズウィックの北東部などの限られた地域で使用されている。 ・日本語の学習では、英語が母語の場合、「ウ」の発音が巻き舌になってしまい、フランス語が母語の場合は「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・教育事情（カナダ）・・・・・・・・・・・・・・・・海外職業訓練協会
- ・カナダの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・アルク

<b>カンボジア王国</b>			首都	プノンペン
 <p>上下を囲む青は王権を、赤は国家を、白は仏教徒を表している。中央の紋章は世界遺産のアンコールワットが描かれている。</p> <p>独立：1953/11/9          国連加盟：1955/12/14          政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 18万 1,000 km <sup>2</sup> (日本の約半分) 国土の大半がメコン川が形成する広大な沖積平野からなる。北東のタイ国境にダンレック山地、北東のベトナム国境に高原地帯がある。南西部はシャム湾に面し、西部には東南アジア最大の淡水湖トンレサップ湖がある。	
		人口	1,410 万人	
		言語	カンボジア語 (クメール語) (公用語)	
		通貨	リエル	
		気候	熱帯モンスーン気候で11月～4月は北東モンスーンによる乾季、5月～10月は南西モンスーンによる雨季である。	
		民族	クメール人 94%、中国系 3%、ベトナム系 3%	
		宗教	仏教 95%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校(6年)、中学校(3年)、高校(3年)、大学(4年)の教育制度となっている。</li> <li>・ 中学校に進学することはエリートコースを進むということであり、中学校に進学するための試験がある。</li> <li>・ 中学3年生と高校3年生の時に卒業試験があり、高校の卒業試験は大学入試資格試験を兼ねている。その試験も2年目が不合格となると試験資格がなくなる。</li> </ul>		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中学校の9年が義務教育だが、就学率は小学校で83.8%、中学校で16.6%と低い。</li> <li>・ 中学校の就学率が低いのは貴重な労働力として農作業等に就いていることが多いからといわれている。</li> <li>・ 都市と地方と遠隔地域、女子と男子といった中で格差が激しい。就学しても中退が多く、その原因とされる学校設備の改善や質の高い教員の養成といった課題への対策が求められている。</li> <li>・ 人口増加率が高いこと、さまざまな理由から落第者が多いことなどから教室の絶対数が不足している。</li> <li>・ 義務教育は原則無料であるが、小学校の授業料を徴収している学校が少なくない。</li> </ul>		


	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は10月上旬より翌年の7月下旬である。</li> <li>・2学期制を採っている。1学期は10月下旬より2月中旬、2学期は2月下旬より7月下旬となっている。</li> <li>・多くの小・中・高校で教室や教師が不足しており、授業は午前と午後の2部制である。</li> <li>・統一カリキュラムは用意されていないが、学習内容は国語、書き方、作文、算数、歴史、理科等が中心であり美術、音楽、体育という科目はない。</li> <li>・中学校からは外国語教育が行われ、英語又は仏語を履修する。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は15～18歳、技術高校・職業訓練校15～20歳、</li> <li>・工学系・法科大学18～23歳(5年間)、医学・薬学・芸術大学18～24歳(6年間)である。</li> <li>・高等教育への就学率は0.7～1.0%と推測されている。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育は義務教育ではないが、託児所は1～5歳、幼稚園は3～5歳が対象である。</li> </ul>
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は9月に始まり、6月に終わるため、7～8月の2カ月間が夏休みとなる。しかし、9月にも日本のお盆のような休みがあるため、多くの学校は10月から始業となる。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村部では児童生徒が貴重な労働力となっており、出席日数不足で落第するものが多い。</li> <li>・また、中学、高校では年2回の試験があり、及第点に達しない者は進級できない。</li> <li>・中学3年生(第9学年)と高校3年生には、卒業試験がある。高校卒業試験は大学入試資格試験も兼ねており、2年目に不合格となると試験資格がなくなってしまう。</li> </ul>
	教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高学校の必修科目は数学、クメール語(国語)、歴史、英語、化学などである。選択科目は体育、芸術、農業があるが、器材や教師の不足で、限られた人数しか受講できない。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食はない。</li> </ul>
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生はボールペンとノートを学校に持っていき、先生が黒板に書くことをノートに取るというような形式の授業を受けている。</li> </ul>
	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服装は男子は白シャツに青か紺のズボン、女子は白いブラウスに青か紺のサンポットと呼ばれる巻きスカートをはいて</li> </ul>

		いる。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・PTAは組織されているが、活発ではない。
	子どもの一日	・多くの学校が半日なので、空いた時間はプライベート・スクールで英語やコンピュータを勉強したり、家の手伝いやアルバイトをしたりしている。
	その他	・地方出身の高校生の中には、お寺に下宿して学校に通い、放課後は料理や洗濯、平日の夜7～10時まではアルバイトをしていて、ひと月80ドルほどのアルバイト代は実家の家計を助けるために送金している生徒もいる。
生活習慣等	その他	・じゃんけんは「パウ」といい、日本と同じように、ハンマー（ニョーニュー）、はさみ（コントライ）、紙（クロダッ）で勝負する。掛け声は「ムオイ、ピー、パイ」と言い、1・2・3! という意味です。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・おもしろジャンケン・・・・・・・・・・・・・・・・日本アセアンセンター
- ・教育を受けるって当たり前？カンボジアの学校を訪問して・・・・・・・・三崎 友衣奈
- ・カンボジアの教育事情は、今・・・・・・・・八木沢 克昌



グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国		首都	ロンドン
 <p>3つの神様の十字架を組み合わせてできている。イングランドの聖ジョージ（白地に赤十字）、スコットランドの聖アンドリュース（青地に白の斜めの十字）、アイルランドの聖パトリック（白地に赤の斜め）が加わり、ユニオンジャックと呼ばれる。ジャックとは船首に掲げる旗のこと。</p> <p>独立：1066/10/14 ノルマン王朝成立 国連加盟：1945/10/24 政体：立憲君主制</p>	国 の 概 要	国土	面積 24万3,000 km <sup>2</sup> （本州の1.07倍） グレートブリテン島とアイルランド島北部、それに周辺の島嶼とからなる。グレートブリテン島は北部にカレドニア山脈、中央にペニン山脈、西部にカンブリア山脈があるが、いずれも古期造山帯のもので、低くなだらかである。南部の一部を除き、広く氷食を受け、スコットランド西岸には、フィヨルドが多い。平野は東部にみられる程度で、高原と丘陵地帯が支配的である。
		人口	5,970万人
		言語	英語（公用語）、ウェールズ語、スコットランド語
		通貨	英ポンド
		気候	高緯度でありながら偏西風とメキシコ湾流の影響で、冬暖夏涼の西岸海洋性気候を示す。年間を通じて降雨があるが、大半は霧雨状で量は多くない。冬の風のない日には霧が発生しやすい。
		民族	アングロサクソン人 94%、ケルト族
		宗教	英国国教会 48%、カトリック 16%、イスラム教 1.7%、長老派教会、メソジスト、シーク教、ヒンズー教、ユダヤ教
教育 制 度 の 概 要	学校体系	・6・5・2・3(4)制をとっている。スコットランドでは7・4・2・4制である。	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリースクール（5歳～11歳）、セカンダリースクール（11歳～16歳）の11年間の義務教育である。</li> <li>・その年の8月31日までに満5歳になる者は、その年の9月1日に義務教育の第1学年に入学する。</li> <li>・日本の義務教育と異なり、必ずしも学校という機関に就学させる義務はない。</li> <li>・公立学校の学費は無償である。</li> </ul>	
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は9月1日より翌年の8月31日である。</li> <li>・3学期制を採っており、1学期は9月1日～12月31日、2学期は1月1日～4月上旬、3学期は4月上旬～8月31日となっている。（年度、地域によって日程は若干異なる）</li> <li>・全国共通のナショナルカリキュラムで実施され、数学、英</li> </ul>	


	<p>語、理科、歴史、地理、技術、情報技術、音楽、芸術、体育、現代外国語、市民教育の 12 科目が必修となっている。14 歳以上では、いくつもある教科の中から、好きな教科を選んで受けることができる。環境学や演劇、ダンスなどの科目を設けているところも多くある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校は基本的にナショナルカリキュラムの束縛を受けないが、多くの学校では、学校独自の特性を生かしながらもかなりの部分で同カリキュラムを導入している。</li> </ul>
義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンダリースクールの生徒は学年が終わるたびに試験を受け、16 歳で義務教育を修了すると GCSE(義務教育修了試験)という試験を受ける。</li> <li>・大学に進学するためにはこの試験で高い成績をとることが必要で、大学進学希望者は 17 歳から 2 年間の受験コースで 2～4 科目に絞って勉強する。</li> <li>・終了後に GCE・A レベルという大学入学資格試験を受け、その結果を希望大学に提出することとしている。</li> <li>・これら試験は、きわめて重要な社会的な資格となっており、これら試験に合格していなければ、学校を卒業してもその価値はないに等しいといわれている。</li> </ul>
就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無償の就学前教育制度が確立しており、ナーサリー・スクール(2 歳～5 歳未満)、インファント・スクール(4 歳～7 歳)、これに併設されたナーサリー・クラス(3 歳～5 歳未満)がある。ここでは有料だが給食が実施されている。弁当を持参してもよい。遠足も実費がかかる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックスクールとは「公立」という意味ではなく、かつて裕福な階層の子どもたちが受けていた家庭教師による「プライベート」教育に対する「パブリック」で、近年のパブリックスクールは、真の国際人として活躍できる総合能力を備えた人材を多く生み出すことのできる教育機関として高い評価を得ている。</li> <li>・教育界ではさまざまな教育改革が行われている。例えば、英語以外の言語をセカンダリースクールの教科を加えたり、学校の国際化を進めたりしている。</li> </ul>
休業期間	
学級担任制、 教科担任制等	

学 校 生 活	飛び級、落第の有無	
	教育内容の差異	・ 課外活動も盛んで、サッカー、クリケット、乗馬、ラクロスなど、イギリスならではのスポーツをはじめ、ボランティア活動をしている生徒も多い。
	学校行事の特徴	
	給食	・ 給食がある学校が多いが、有料である。寮制でない場合には保護者の判断によって弁当を持参することも認められている。 ・ 民間の給食会社が子どもたちに学校給食を提供しているが、学校によって給食費がまちまちで、利用する子ども、昼食を持参する子ども、昼食時一時帰宅する子どもがいる。 ・ 献立としては、じゃがいもとチーズの割合が多く、ベークドポテトやシチュー等が人気である。
	チャイムや号令	
	教室における行動様式等の違い	・ 授業は 1 クラス 10～20 人程度の少人数制で、生徒同士の活発な意見交換などを中心に進められる。
	校則	・ 耳にひとつのピアス、ネックレスは認められている。 ・ 指輪はだめである。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	
	子どもの一日	・ 放課後は友達同士で集まり、おしゃべりをして過ごす生徒が多い。
生 活 習 慣 等	言葉の指導面の留意事項	・ 地域によって、言葉が少し違う。ロンドン市内にも「コクニー」と呼ばれる方言がある。 ・ 日本語の学習では、「ウ」の発音が巻き舌になってしまうことがある。
	宗教上の忌避事項	
	食生活	・ ソーセージがよく食べられ、生のものを焼いて食べる。
	衣服住居の違い	
	交通規則の違い	
その他		

<参考資料>

- ・ 世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・ 世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省

- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・イギリスの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・・・アルク
- ・かわさき教育だより 社会科見学「世界の給食」・・・・・・・・川崎市教育委員会
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・・・・・・・・・・・KDDI

<b>コスタリカ共和国</b>			首都	サンホセ
 <p>赤は「労働者の紅潮した頬」 青は「空と海」、白は平和を 表している。丸いのはエス クード（紋章）である。</p> <p>独立：1821/9/15 スペインより 国連加盟：1945/11/2 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 5万 1,000 km <sup>2</sup> （九州の1.4倍） 中央部は平均高度 1000m のメセッタとよばれる高原台地が広がり、カリブ海側は北東部に低平地が開け、太平洋側は岬や湾が多い。台地の西側には火山群からなる山脈が走り、時折地震が発生する。	
		人口	430 万人	
		言語	スペイン語（公用語）	
		通貨	コロン	
		気候	両岸とも熱帯性気候で、太平洋側は乾燥、カリブ海側は高温多湿で年間降水量は 3000～4000mm に達し密林を形成している。高原部は温暖でサバナ気候から高山気候まで多様であり「中米のスイス」とよばれている。12～4 月が乾季、5 月～11 月が雨季である。	
		民族	スペイン系 97%、アフリカ系 2%、インディオ 1%	
		宗教	カトリック 85%、福音プロテスタント 14%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 歳から小学校 6 年、中・高等教育 5 年（中学校 3 年・高校 2 年）、大学（5～6 年）となっている。</li> <li>・ 公立の幼稚園（キンテル）と 6 年間の小学校（エスクエラ）と 5 年間の中学高校（コレヒオ）は無料、私立は有料、大学（ユニベルシダ）は国立・私立共に有料である。</li> <li>・ GDP の 6%を教育に充てることを憲法で謳っている。</li> <li>・ 国家予算の 20%を教育省に配分し教育普及率は中米随一といわれている。識字率は 96%(2005 年)。</li> </ul>		
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育は中等教育までの 9 年間で 6 歳～14 歳の期間である。その年の 2 月 1 日までに満 6 歳 6 ヶ月になる者は、その年の 2 月の下旬に義務教育の第 1 学年に入学する。</li> <li>・ 小学校はすべての地域に設けられている。単位制で夜間も開校しているので、年齢に関係なく就学意欲のある者にはその機会が与えられる。</li> <li>・ 公立の小学校では、施設の不足から午前・午後の 2 部制をとっているところが多い。</li> <li>・ 多くの私立学校及び国際学校では、幼稚部を含めた一貫教</li> </ul>		

		<p>育を行っているので、同じ学校で高校まで修了することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は2月上旬～12月下旬であり、2学期制をとっている。その内訳は、1学期は2月上旬～7月、2学期は8月～12月下旬である。</li> <li>・教科書は日本のように一人一人に配布されるのではなく、購入しなくてはならず、先生ごとに違うものを使っているため、兄弟でおさがりを使うことも出来ない。</li> </ul>
	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語による授業で、科目は、国語、算数・数学、理科、社会科、体育、音楽などのほか宗教が加わる。第2外国語は英語が主体であり、一部にフランス語も取り入れられている。</li> <li>・高等部では、英語とフランス語を行う。</li> <li>・第3外国語として、日本語を教えている学校もある。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校卒業時と高等部卒業時の2回、教育省の国家試験があり、そこで基準に達していなければ落第する。</li> <li>・大学進学希望者はこの試験に合格しないと大学入学試験が受けられない。</li> <li>・年齢に関係なく就学意欲のある者にはその機会が与えられ、中・高等教育や大学教育は勤労者にも広く開放されており、夜10時まで行われている。</li> <li>・大学教育においては奨学金の支給率も高く、何らかの奨学金を受けている者が多い。</li> <li>・国内に4つの国立大学及び30以上の私立大学、大学院修士課程取得のための国際機関の教育施設が2校ある。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学前教育は義務ではないが、公立・私立の幼稚園がある。</li> <li>・公立の場合は幼稚園、私立の場合は乳幼児から入園できる保育園及び幼稚園からなっている。</li> <li>・公立・私立ともに、就学前10ヵ月にわたり入学前教育が行われるようになり、最近では多くの児童が通っている。</li> </ul>
学校生活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日～16日の中間休暇と11月17日～2月13日の学年末休暇がある。</li> <li>・3月21日～25日はセマナ・サンタで休みである。キリスト教（主にカトリック）の関係で、1週間お店も休みになる。</li> </ul>
	学級担任制、教科担任制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語、社会、算数、理科の教諭は常勤（担任が主に教える）であるが、図工、音楽、体育の教員はコスタリカ内</li> </ul>

	<p>で不足しているため、非常勤である。数校掛け持ちで教えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に午前と午後の教職員が交代するので、職員がじっくり教材研究をする時間がない。</li> </ul>	
飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は年に3回行われる。</li> <li>・小学校1年から各学年の学期の最後に試験がある。前期40%、後期60%の合計で65点がボーダーラインで、教科の4つ以上を落とすと落第となる。3つまでなら再試験で、それも落とすと落第になる。そして、最終的に10%の児童が落第する。同じ学年は3回まで落ちることが認められている。それを超えると点数が足りなくても上の学年に上がることができる。</li> </ul>	
教育内容の差異	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい学年から「道徳」の学習で「選挙」の教育をしている。選挙があるときは、子どもたちも「模擬選挙」を体験することができる。</li> <li>・理科の実験や観察はあまり行われていない。</li> </ul>	
学校行事の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠足はあるが希望者のみであり、高等部においては課外授業としてスポーツや文化活動も行われている。</li> </ul>	
給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食制度が取り入れられている。</li> <li>・おやつなどを学校で売っている。</li> </ul>	
校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立学校は小学校が白、中学校は水色のシャツ、および紺のズボンが制服として定められている。私立学校は学校によって制服が異なる。</li> <li>・宿題は毎日2~3時間程度の量が出される。</li> <li>・校則は厳しく、遅刻3回で1点、不当な欠席で1点などの減点制度がある。</li> </ul>	
保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバス利用代金を支払う。</li> </ul>	
子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後はスポーツをしたり、家の手伝いをしたりする。</li> </ul>	
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別ができない、「シ」と「チ」の区別ができない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する、「ハ行」の子音が脱落することがある。</li> </ul>
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の家での常食は米（日本のような粘りが無い）パン、小豆に似た豆（フリホーレス）、とうもろこし、ユカ、プラタナなどと、牛肉、鶏肉である。</li> <li>・飲み物はフレッシュジュースやコーヒーがよく飲まれ、果</li> </ul>


	<p>物は熱帯のものが種類、量ともに豊富で、りんごやぶどうも生産されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・料理には、バター、チーズ、ナティージャ（サワークリーム）、生クリーム、大豆油、豚の油をよく使う。オレガノやクラントロという香草も使う。</li> </ul>
衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年中気温が平均して一定なので、日本のように衣替えという習慣もなく、四季折々の特別な服装もない。</li> <li>・季節によるのではなく、個人の好みによる服装で、全く自由であり、どちらかといえば、年齢にかかわらず色は華やかな原色が好まれる。</li> <li>・大変おしゃれをする人が多く、金属やプラスチック、布などで作られた装飾品の種類が豊富である。大部分の女子は生れた時からピアスをしている。</li> <li>・村のお祭りやカトリックの大事な儀式のときは、「カンペシーナ」という民族衣装を着る。</li> <li>・一般的な家には、寝室が 2~3 室あり、居間と食堂が続いて一緒になっており、更に台所、トイレ、シャワー室、物干し場などがある。</li> <li>・鉄筋にブロックを積み、モルタルでおおった造りが多く、床は板や石のタイルでできている。</li> <li>・屋根は火山の噴火と地震に備え、トタンがほとんどである。</li> <li>・サン・ホセ市内では、入口や窓を鉄格子でおおい、嚴重に鍵をかけている家が多く、窓はセロシヤという幅の狭いガラスを組み合わせたもので、日本のように窓をいっぱいには開けることはできない。</li> <li>・電気や水道はよほど生活条件の悪いところ以外はよく普及している。地震が多いせいか、ほとんどの家庭の台所はガスを使わず、炊事用の電熱器（コシーナ）を使っている。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいときから「レディーファースト」の姿勢が身についている。</li> <li>・家族の絆がとても強く、親や兄弟を大事にする。自分の家族をほめることはしてもけなすことはなく、「謙遜」することはほとんどない。</li> <li>・名前のつけかたは日本と大きな違いがある。姓名は、名前・父方の姓・母方の姓でできている。響きのいい名前を好み、家系にその名前を残したいからという理由で、親子が母方の</li> </ul>



		<p>姓を除いて全く同じ名前であったり、親戚で同じ名前ということがたくさんある。</p> <p>・日本については、経済大国、美しい自然、都市の巨大化、テクノロジーの発達、近代文化と伝統文化の混在などの印象のほか、ストレス問題があるという知識をもつ生徒もいる。</p>
--	--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の教育情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・サンホセ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・海外子女教育財団
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・海外日本人学校勤務経験教員より

<b>コロンビア共和国</b>		首都	ボゴタ
 <p>黄は鉱物資源を、青は空と太平洋、カリブ海の海を、赤はスペインから独立するために流した血を表している。 新大陸の発見者コロンブスにちなんで名づけられた。</p> <p>独立：1810/7/20 スペインより 国連加盟：1945/11/5 政体：共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 114万 1,748 km <sup>2</sup> (日本の3倍) アンデス山脈はこの国にはいると、東部・中央・西部の3つの山系に分かれて、それぞれに3000m級の山脈を形成している。このため、国土の40%は山地で、東北部はオリノコ川の支流メタ川流域のリャノとよばれる大草原が広がり、東南部はアマゾン川流域の密林地帯である。
		人口	4,209万人
		言語	スペイン語(公用語)
		通貨	ペソ
		気候	地形条件から4つに区分される。海岸など平野部は高温多湿の熱帯性、標高1000~1500mの地域は亜熱帯性、その上は変化の少ない常春の気候で、3000mを超えると高山性となる。雨季は3月~5月と10月~11月の2回ある。
		民族	メスティソ(白人とインディオの混血)60%、サンボ(インディオと黒人の混血)14%、ヨーロッパ系20%、アフリカ系5%、インディオ1%
	宗教	カトリック90%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初等教育(小学校)5年、前期中等教育(中学校)4年、後期中等教育(高校)2年、高等教育(大学)5~6年からなっている。</li> <li>・アメリカ系やヨーロッパ系の私立学校もある。</li> </ul>	
	義務教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育は初等教育5年と前期中等教育の4年の9年間である。</li> <li>・その年の12月31日までに6歳になる者は、翌年の2月上旬に義務教育の第一学年に入学する。</li> <li>・近年、未就学に関して罰則されるようになった。</li> <li>・公立学校の授業料は無償だが、その他の費用(教科書代、軽食代、制服)、PTA会費(スクールバス費、保険費)は自己負担である。</li> <li>・就学率については地域格差が大きい。また、大都市近辺に移住を余儀なくされた国内避難民子弟への教育サービスの提供が問題化している。</li> <li>・私立校の教育水準は高い。</li> </ul>	

	日本と比較した教育課程上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校年度は2通りあるが、</li> <li>・2月期の学校は2月15日～11月15日で、前学期2月上旬～6月中旬、後学期7月上旬～11月中旬、</li> <li>・9月期の学校は9月15日～6月15日で、前学期9月中旬～12月中旬、後学期1月中旬～6月中旬、としている。これは、学校により異なる。</li> <li>・また、公立学校の多くは午前と午後の2部制度を採り、生徒も教師も入れ替わる。夜間の部もある場合がある。</li> <li>・カリキュラムは、教育省が規定する教科（スペイン語や歴史など）及び授業数を基本とし、学校ごとに独自の教科を加えている。</li> <li>・特別活動として、日本の「クラブ活動」を行っている学校もあり、清掃活動を行う学校もある。</li> </ul>
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正式な統計ではないが、後期中等教育2年間への進学率は約50%、高等教育（大学、短大）への進学率は15%といわれている。</li> <li>・ボゴタは「南米のアテネ」と呼ばれるほど数多くの大学があり、希望者は国家試験に合格し、さらに希望校の入学試験に合格すれば、希望校に入ることができる。教育費は日本以上に高いが、国や他機関が提供する教育ローン制度などを利用すれば、大学に行くことは可能である。</li> </ul>
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳～6歳児を対象とし、就学前の最低1年間は法律上義務となっている。</li> <li>・幼稚園は私立のみである。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に教育に熱心だが、経済的な理由で就学できない子どももおり、街頭で働いている姿をよく見かける。</li> </ul>
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みは、7月中旬から約1カ月間、冬休みは、12月1日から1月20日頃まで、3月に聖週間の休みが1週間ある。</li> </ul>
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛び級も落第もある。</li> </ul>
	給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェテリアで昼食を提供する学校、売店で軽食を買える学校、弁当持参の学校、とまちまちである、</li> <li>・給食を実施している学校でも、給食を食べるか、弁当を持参するかは、各家庭で決める。</li> </ul>

	校則	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立学校では派手なアクセサリーや化粧は禁止されている。</li> <li>・男子生徒は長いヘアスタイルは禁止で、派手なピアスや髪形をしないよう指導される。</li> <li>・女子は普通のピアスは認められている。</li> </ul>
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの学校は PTA 会費を徴収し、学校運営費にあてている。</li> </ul>
	子どもの一日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後には宿題をしたり、家族とともにテレビを見たりして過ごす。</li> </ul>
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公用語であるスペイン語の発音には「ツ」と「シ」と「ジャ行」の発音が無いいため、日本語の学習では、「ツ」と「ス」と「チュ」の区別がつかない、「シ」と「チ」の区別がつかない、「ヤ行」と「ジャ行」が混同する。</li> <li>・「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。</li> </ul>
	食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道水は直接飲むことができない。沸騰させて飲んでいる。水を買う人もいる。</li> <li>・「アロス・コン・ポーヨ」という鶏肉入りご飯をよく食べる。味付けは塩・クミン・パプリカ・ガーリックパウダーである。</li> </ul>
	衣服住居の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン風の建物・カトリック教会が多く見られる。</li> </ul>
	交通規則の違い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボゴダには地下鉄はない。日本ほど発達した電車ではないが、ボゴダには電車はある。</li> <li>・交通渋滞はかつて社会問題となっていたが、近年においてこの状況は改善され、近代的な交通システム「トランスミレニオ (TRANSMILENIO)」が導入されている。</li> <li>・市営バスが最も多く利用され、続いてタクシー、自家用車の順である。</li> </ul>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正式な名前は、ファーストネーム 1 (+ファーストネーム 2) 名字 1 (父方) +名字 2 (母方) である。名字 3 (父方) +名字 4 (母方) まである子もいる。</li> <li>・学校ではファーストネームで呼ばれる。</li> <li>・日本製の車やオートバイ、テレビ、カメラ、コンピュータなどが多く出回っている。人気アニメもテレビで放映されており、日本語・中国語の学習熱も高まってきている。</li> <li>・日本については、地球の裏側にある技術の発達した国という印象をもち、日本文化に対する関心が高くなっている。</li> </ul>

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・コロンビア共和国の概観について・・・・・・・・元ボゴタ日本人学校教員 成田 善次郎
- ・ボゴタ日本人学校（月刊誌「海外子女教育」）・・・・・・・・海外子女教育財団
- ・日本語指導教材の開発・・・・・・・・井上恵子
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・KDDI